

水上温泉街の再生に企業版ふるさと納税で支援



▲株式会社オープンハウスグループ 事業開発部
松岡さん(左)・横瀬さん(右)、阿部町長(中)

11月29日(火)、株式会社オープンハウス・ディベロップメント(福岡県)が、株式会社オープンハウスグループ 横瀬寛隆 事業開発部長へ感謝状を贈呈しました。

この寄附金は、産官学金包括連携協定に基づき本町が実施している旧一葉亭解体工事に活用し、水上温泉街中心部の再生まちづくり事業に役立てていきます。同社の親会社である株式会社オープンハウスグループは、みなかみほうだいぎスキー場の経営も担うなど、みなかみ町の新たな魅力向上、地方創生に取り組んでいます。

環境問題の解決に向け環境政策アドバイザーを委嘱



▲前田雄大さん(左)、阿部町長(右)

12月23日(金)、地域における環境問題の解決に向け、町は新たに「環境政策アドバイザー」を設置し、脱炭素分野の専門家である前田雄大さん(須川)に阿部町長から委嘱状が手渡されました。

環境問題、自然環境の保全、再生可能エネルギーの活用および省エネルギー等に関する政策のさらなる推進を図るため、アドバイザーからの助言や情報提供をもとに、「ゼロカーボンシティ」「みなかみユネスコエコパーク」「みなかみ町SDGs未来都市」などに基づく取組を進めていきます。今後、前田さんを講師に町職員や町民向けの研修会等の開催も予定しております。

利根商業高校が地元産ぐんま名月で商品開発



▲三浦さん(左)、南雲さん(中)、山崎さん(右)

利根商業高校(加邊一芳校長)の情報経済科3年の山崎結菜さん、南雲夕伽里さん、三浦空さん、野口海翔さんが、地元産のぐんま名月を原料としたシロップ「あつぷるジンジャー」を開発しました。

開発は授業の一環として行われ、地域の魅力を発信したいという思いから地元産の食材を使用したシロップを考案しました。試作やたくみの里の社長への試食プレゼンを重ね、商品化が決定しました。「あつぷるジンジャー」は、たくみの里内の直売所「豊楽館」で1本540円(税込み)で販売されています。

利根商業高校がビジネスアイデアコンテスト学長賞受賞



▲左から眞庭さん、林さん、横沢さん、星さん

利根商業高校(加邊一芳校長)3年の横沢淳之介さん、眞庭和志さん、林瑛太さん、星想真さんが高崎商科大学主催の第21回ビジネスアイデアコンテストで学長賞を受賞しました。

横沢さんたちは、昆虫食への注目が高まっている中、外国産のコオロギが輸入されていることに着目し、群馬県産コオロギを活用した特製味噌ソース「コロみそ」で高齢者の栄養サポートや地域経済の活性化を図るビジネスプランを展開しました。

斬新なアイデアと社会性が評価され、このたびの受賞となりました。



▲小林組合長(左)、
阿部町長(右)



▲寄贈された木製ベンチ

12月27日(火)、奥利根木材組合(小林賢一組合長)より、木製ベンチ5台(屋内用2台・屋外用3台)をご寄贈いただきました。

寄贈されたベンチは、群馬県産のヒノキなどを使用して作られたもので、屋外用ベンチ3台には雨風による腐食を防ぐための防腐効果が施されているなど、丹念に仕上げられています。

これらのベンチは、谷川インフォメーションセンターに設置し、町内外の皆さんに親しんでいただきます。

奥利根木材組合より木製ベンチをご寄贈いただきました



▲アカネズミの貯食行動と学習実験

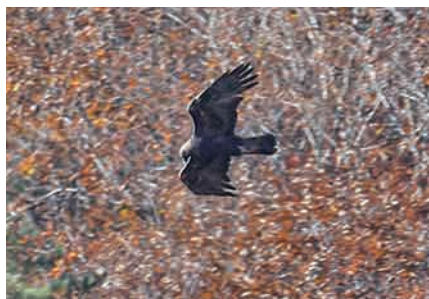
みなかみ中学校3年の見城光祐さん、竹田しほさん、片桐静流さん、眞下心花さん、星野真優さんの5名による『イヌワシの住む森を復元するアカネズミ

「貯食行動と学習実験」の研究が、「日本学生科学賞」の群馬県優秀賞に輝きました。この賞は歴史と伝統のある日本一の科学賞です。

アカネズミは森でドングリや木の実などを食べる日本固有種の小さなネズミで、明るい茶褐色の体毛から学名を「美しいネズミ」と言います。エサのない冬に備えて秋にたくさんドングリを森に隠す「貯食行動」を行って、ドングリの森を増やします。研究では「貯食の目印として「十字図形」や「丸い図形」を学習させてクルミを取らせることに成功しました。

「日本学生科学賞」の群馬県優秀賞を受賞

赤谷の森の「イヌワシの森づくり」



▲「草刈作業の翌日伐採地で獲物を探す赤谷の森のイヌワシ雄(撮影:上田大志)」



参加した皆さんは「イヌワシの狩り場の創出」のため、杉の人工林を伐採したエリアをもとの自然の森に戻していく活動として、日本自然保護協会の出島誠一さん、赤谷プロジェクト地域協議会の石坂克之さんらと一緒に、赤谷の森で採取したミズナラのドングリからおこした苗などの植樹や、下草刈りを行いました。



◀▲植樹や下草刈りなどの作業の様子

親から子へ、子から孫へと100年かけて「イヌワシの住める森」をつくるため、未来を担う地元の小・中・高校生たちが、みなかみユネスコエコパークの「豊かな生物多様性の森づくり」に挑戦してくれています。

豊かな森は水害を防ぎ、飲み水を作り、地球温暖化を防ぎ、わたしたちの命を守ってくれます。

作業の途中で、アカネズミの「貯食」により発芽して成長したとみられる「ミズナラの稚樹」も発見されました。

水月夜
生産組合の
本多義光さん 米・食味分析鑑定コンクールで金賞を受賞



▲水月夜生産組合の皆さん

1月11日（水）、水月夜生産組合の本多義光さん（新巻）が12月に開催された第24回米・食味分析鑑定コンクール国際大会において金賞受賞の喜びを町長に報告しました。

水月夜生産組合では、みなかみ産米のコシヒカリのおいしさを宣伝するため、積極的に大会に参加しています。本多さんらの長年の取り組みが評価されて群馬県代表に選ばれ、見事に金賞を受賞しました。おめでとうございます。

魅力ある「コミュニティ助成事業」実績報告

地縁団体須川宿では、宝くじの収益による「魅力あるコミュニティ助成事業」により、地域で使用する除雪機を購入しました。公民館や地域のお年寄り世帯などの除雪作業に使用し、コミュニティの活性化を図ります。

（公財）群馬県市町村振興協会では、宝くじの収益による

社会貢献広報事業としてコミュニティ助成事業を行っています。地域コミュニティ活動に必要な設備等の整備に対し助成する事業で、地域コミュニティ活動の充実・強化を図り、地域社会の健全な発展・住民福祉の向上を目指すものです。

■問い合わせ先

総合戦略課 官民共創係

☎0278(25)50032

▼新調した除雪機 1台



第47号

まちづくり協議会だより

まちづくり協議会事務局（総合戦略課） ☎0278(25)50032

新治支部の活動【ギンメイチクの保全】

皆さん、『ギンメイチク』を存じでしょうか？ギンメイチクは真竹の変種で、節の上にある芽溝部（芽がついているところが溝状に窪んでいる部分）が黄金色、その他の表面は緑色になっているとても貴重な竹の一種です。黄金色と緑色のコントラストが市松模様を描き、見るものを魅了します。

まちづくり協議会新治支部
福田 茂

笠原区にあるギンメイチクは、これまで誰の目に付くこともなく、藪に囲まれ、近寄ることもできない状態でした。新治支部では4年前から手入れを始め、ようやく竹林らしい姿になり、たくみの里地内に案内看板も設置しました。雪がなくなりましたら、ぜひ觀賞にお越しください。今後、年3〜4回ほど整備作業



▲整備されたギンメイチクの竹林



▲ギンメイチク竹林位置図

地域おこし協力隊の活動

NPO法人奥利根水源地域ネットワーク所属

伊良皆高史さん

協力隊として自伐型林業に取り組み始め、早くも1年9ヶ月が経ちました。昨年度は所属団体での活動がメインでしたが、今年度からは所属団体での活動プラス、「みなかみ町森林活用協議会」のお手伝いをする事になり、町内自伐団体へのフォローアップ研修や、みなかみ町自伐型林業研修など、各種協議会事業に関わらせていただいております。

昨年9月の下旬から11月中旬の間に実施された自伐型林業研修では、チェーンソーの取扱いや選木・伐木技術、木の搬出に必要な作業道敷設、林内作業車を使用した丸太の搬出について、参加された皆様が熱心に学んでいました。

平成28年度から毎年開催されているこの自伐型林業研修ですが、これまで200名以上の方々が受講されていることから、町民の方々の森や木に対する意識が高いことがうかがえます。この研修をはじめ、協



▲自伐型研修の様子



▲樹上作業の様子

議会の各種事業を通じて森林整備に関わる方々が増え、手入れされている森が町内により増えていくよう、引き続き微力ながらお手伝いできればと思っています。

来年度はいよいよ協力隊最後の1年となります。任期後に向けての準備をしつつ、今年もしっかり汗をかいて頑張ります！

また、個人的なことになりますが、昨夏に、1年3ヶ月を過ごした上組地区から師地区へ引っ越ししました。上組地区の皆様、短い期間ではありましたが、暖かく接していただき本当にありがとうございました！師地区の皆様、家族共々よろしく願いいたします！

一般財団法人みなかみ町体験旅行所属

山中久美さん

こんにちは。一般社団法人みなかみ町体験旅行に所属している地域おこし協力隊の山中久美です。スノーボードが好き過ぎて「雪山の近くで暮らしたい！」と、昨年の春からみなかみ町に移り住みました。温暖な神奈川とは真逆の雪国生活からスタートし、2年目を迎えようとしています。

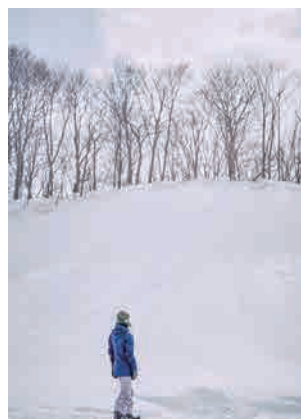
移住の理由は本気の趣味が大きいですが、仕事にも本気の自分でありたい、新たな環境で自分自身をリスタートしたいという思いもあり、みなかみ町体験旅行へ着任しました。その思いも叶ったかのような怒涛のように過ぎていった1年目でした。

みなかみ町、みなかみの人々とだからこそ体験できるプログラムを企画提供している職場に、社内外の刺激的な方々と出会うことができ、魂を吸い取られるような毎日でした。のらりくらりと過ごしてきた私にとって、生きる力というものを、ここみなかみ町で感じています。

2年目となる今年は、1年目の経験が無駄にせずに、私自身が地域の人々と繋がり、みなかみ町への来訪者と繋ぐこと、みなかみ町の魅力をより磨いて

いけるような関係を築いていく取り組みをしていきたいと思っています。

また、プライベートではみなかみ町スキー場アンバサダーとしても活動しています。8つのスキー場があるスノーエリアとしてのPRもして、1年を通してみなかみ町の魅力を伝えていきたいと思っています。



▲趣味のスノーボード



▲スキー場アンバサダーの活動